

第9回原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

日 時	平成31年2月25日（月）19:00 ～ 20:35
場 所	原野谷中学校図書室
出 席	委 員 18人（欠席4人） 事務局 教育長、教育部長、学校教育課指導主事、教育政策室係長 教育政策室指導主事、教育政策室主任、教育政策室主事
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 委員長あいさつ</p> <p>4 報告事項</p> <p> (1) 第8回地域検討委員会について</p> <p> ※事務局より説明</p> <p>5 協議事項</p> <p> (1) 検討委員会報告書（案）について</p> <p> ※事務局より説明</p> <p>【委員長】</p> <p> ・文言の修正、若干の加筆があった。14ページに、提言部分を冒頭に持ってきたことが大きな変更点であるが、内容が根本的に変わったというところはない。最後の詰めとなるので、気付いた点や質問等お願いしたい。</p> <p>【委員】</p> <p> ・若い皆さんはどんな教育をしてくれるのかと期待している。違うところに住んでいる人に、あの学校だったら是非行ってみたいと思われるような教育を誰がつくってくれるのか。ぜひそこは、例えばでもよいので、夢のあるものが報告書にかかっているとよい。</p> <p>【委員】</p> <p> ・施設のみにとどまるのではなく、中身が充実した教育を願うということ。住民集会のときにも、「ビジョンがあるのか。」という質問も出ていた。教育の内容は、今後設置の検討委員会で作られるはずであるが事務局はいかがか。</p> <p>【事務局】</p> <p> ・検討委員会の中では「どんな学校を」というところまでは踏み込めなかった。今後、基本構想を作成していく中で核になる部分である。よって、これからが大変重要になる。現時点では、「図書館を充実させたい。」「部活動ではソフトボールが強いから、ソフトボールを充実してほしい。」など、要望の中に記載している。基本構想を作成していくときには、今行っている原野谷中学校区の小中一貫教育の研究の結果も加味しながら、原野谷学園としてどのような学校にしていくのかを考えていくことになる。これは、学校だけではなく、地域住民にも一緒に考えていただきたい。今の検討委員会のもう一步先の話になってくると思う。</p> <p>【委員長】</p> <p> ・具体的にはもう一步先の構想委員会で行うこととなる。計画としては前に進むが、報告書として足りないところか。例えば、提言が14ページに4つあるが、その中に、「施設一体型の学校を整備することによって、より充実した教育を目指してほしい。」ということを入れる方が良いかどうかということになる。他に、教育のあり方について</p>	

の意見はあるか。例えば、2ページに「小中一貫教育推進基本方針」があり、それを受けて我々の地域検討委員会は取り組んでいる。2ページの下から2行目に「市全体で質の高い教育を推進します。」と書かれており、そのことにより、「施設一体型」は、より質の高い教育を目指すという意味となる。よって、このままでも十分であるが、加筆した方がよいか。

【委員】

- ・これからの子どもたちに求められる子ども像に、「グローバル」や「地域愛」など言われている。そういった子どもはどうしたら育まれるのか。特色や魅力という言葉しかないが、質の高い教育をできるような学校にするということは是非謳ってほしい。

【事務局】

- ・子どもたちは「この地域が好き」というところにつながる。現在、各小中学校で、先生が頑張っていて指導し、子どもたちが学校に通うのが好きで、楽しく授業を受けられる教育環境を整えている。現状維持ではなく、さらにもう一步進めた「質の高い教育」へと発展させたい。今回、「施設一体型」が望まれ、一步踏み出そうとしたことが、本検討委員会の協議の流れであると思う。今の質の高い教育が、さらに施設を変えることによって発展していくと思う。

【委員】

- ・17ページに原野谷学園の「小中一貫教育グランドデザイン」を作成し、目指す子ども像を話し合っていて決めて、ミッションを各学校で共通して取り組んでいることを記載している。「夢を抱き くりりしく歩む 原野谷っ子」という目標があり、そういう子になることはものすごいことだと思う。また、「賢く くりりしく たくましく」を各学校で力を入れていきたいと話し合っていて決めた。

【委員長】

- ・3小中学校で、しっかりと基本方針として据えられていることがよい。

【委員】

- ・提言の、「質の高い教育を進めていく」ことに関して、「質の高い教育」に向けて取り組んでいることを、校長先生の話聞いてわかったが、一般の人は「質の高い教育」という言葉で片付けられてしまうと、意味がわからないと思う。グランドデザインを基に、さらに質の高い教育に励んでいくように目指していくという言葉にしてくれた方がわかる。

【事務局】

- ・2ページの「推進基本方針の②」については変えられないが、それ以外のところで「グランドデザインを生かして」や、類似の言葉を入れることで、分かりやすくなるということであれば修正する。

【委員】

- ・提言やグランドデザインを読むと、「よくできた子」とか、「家庭環境がよい」という感じで、この学校に来れば伸びるという感じがするが、今虐待や問題がある子はどうするのかというのがこの提言から見えない。家庭が難しければ地域で育てるという視点があると「ここだったら暮らせそうだな」と地域の人から見ても感じられる。「原野谷だったら安心だ」と、今地域に住んでいる人にも思ってもらえるようなところがあると魅力になると思う。

【委員長】

- ・大事な視点である。家庭の問題や虐待等、今いろいろなところで話題になっているが、誰もが安心して新しい学校に通わせることができるという期待、希望がうまく表現されるとよい。どうしても新しい施設を作る際には理想像のほうに偏りがちとなり、家庭の問題になかなか踏み込みにくいということもある。うまく安心感を与えるような表現ができるとうい。

【事務局】

- ・「質の高い教育」というところにおいて、今虐待の問題は非常に社会の大きな問題になっている。これからの時代、行政は家庭教育に目を向けながら、何ができるかということ議論していかなければならない。人口12万の掛川市の中で、新たな学園づくりを進めているが、地域の教育力が高まっていくような学校教育・学園であってほしいと願っている。原野谷学園の規模であれば十分できる。「質の高い教育」というのは学校教育だけでなく、地域の教育、家庭の教育も含まれる。地域で支え合いながら、虐待も防げるような学園ができるのではないかと考えている。そのためにも、どのような教育施設が必要なのか、ソフト面については、市内31校の目標を見据えながら、最終的にはこの中の文言を入れるかどうかは別として、虐待への対応なども、我々の考えの中にはあることを御理解いただきたい。

【委員長】

- ・市全体の方向としては十分安心できるものであり、グランドデザインにそうした表現が含まれている。

【委員】

- ・地域の方がいろいろな活動で関わり、人権・道徳教育について一人一人を大切にしていける必要がある。また、家庭学習の充実を図ることで、親子の関わりを見つめていく機会を設けている。この具体的な方策を書くと、みんな原野谷学園に来たくなるので、困るところもある。

【委員長】

- ・グランドデザインをもう少し大きくした方がよいのではないかと。

【事務局】

- ・グランドデザインについては1ページのスペースをとるようにしたい。

【委員】

- ・内容は大人目線で考えているが、実際の子どもたちの意見を聞いているかということ、子どもの方が、自分たちがこういう学校があったら楽しいなとか、そうした意見も取り入れて考えていくと子どものためになることができるのではないかと。

【委員長】

- ・学校の先生方も入っておられるので、そうした子どもの実情も踏まえた上で様々なところに提言が反映されているとは思いますが、そのへんはどうか。実際子どもに小中一貫のアンケートは採りづらいかもしれないが、検討の中で例えばすでに設置されている一貫校を視察する中で、子どもにも非常に良さそうだなというところは感じ取られて、反映されているのではないかと。

【事務局】

- ・子ども一人一人にアンケートはしていないが、昨年中学生議会で原野谷中の子が小中一貫教育のことについて質問をしてくれて、僕たちの学校というのは大事だけれども、これからのことを考えた時にどうかという意見を出してくれた。そういったところを含めても、検討委員会の中で子どもの目線の立場で、どういった施設がいいのかということを考えてきたので、その結果が報告書になっているのではないかと考えている。

【委員】

- ・実際に子どもたちに小中一体校になることについてアンケートは採ったことはないが、一貫教育をやっている中で、子どもたちの感想として、6年生に中学校の教師が来て授業をやってくれると安心感がでて、ギャップがなくてスムーズに行く。子どもたちから聞こえてくる声としては、すごくよかったという意見が聞かれる。5年生の自然教室等は原田小と一緒にいくが、すごくよかったという声があるという実態がある。

【委員】

- ・14ページのところ、冒頭で4点の提言を出して展開していくのはよいと思う。これが

あって流れている感じがする。上3つの提言はよく話してきたのでよくわかる。一体型の学校が望ましい。できるだけ早く作ってもらいたい。それから、地域の意見を反映してほしい。地域の人たちの出席率、この前も大変少なかったが、これについては大きな反対意見はなかったのも、これについては当然これでやってくれるという形でとらえているというのが実態である。今から確認したいのは4点目。将来的にはというところが気になったので、確認をしたい。この文章の中で上の3つとどのように絡んでくるのか、学校ができてからの将来的なことなのか、来年からの将来的なことなのか。学校ができてからなのか、同時並行での将来的ということなのか。気になるのは、同時並行という意味で使われているとしたら、再編などいろいろなことを考えて行くと、この話が全部戻ってしまうのではないかとということをお心配している。ここがちょっとわからないので、説明してほしい。

【事務局】

- ・この将来的にはという文言については、結論からいうと同時並行も考えて行かなければならないと思っている。検討委員会で4回か5回の時にグループワークで、こういった意見が出されたことを認識している。近隣を含めての考えも必要ではないかというような御意見が出されたので、これに対してそういう方向もあるということで提言の中に加えてきたという経緯がある。そういう意味で4点目は入れさせていただいた。ただ、先ほど報告の中でも申し上げたが、掛川市全体のことを考えていかなければならないが、それを踏まえながらも原野谷学園として一番いい方向を考えていきたいということがあるので、将来的には同時並行ではあるが、一学年複数学級をとということで、今のところ5年後までは複数学級が確定していると思うので、それが維持できるような環境を考えていかなければいけないと思っている。先ほど委員がおっしゃったとおり、さらにその先の話もあると思う。先ほどお話しがあったとおり、すごくよい学校を作って、みんな来過ぎちゃったらどうしようという考えもあるかなと思うので、さらに先の将来的なというところも考えていかなければいけない。ただ人口の推移は全体的に減っていくので、その中で奪い合っても仕方の無いことだと思う。今いる子どもたち、これからこの学校に来る子どもたちにとってよりよい環境、教育施設を今後考えて行く必要があると思ひ、将来的にという言葉をつけさせていただいた。

【委員】

- ・同時並行というのはわかった。同時並行で心配されるのは、原野谷学園の地域でわかってきたことは、原田小の大変さというか、子どもたちが出て行ってしまっていて、どんどん減少している。これを止めるには早く学校を作って、出て行かないようにしなくてはならない。他の方ともこういうことを話していると、いつまでたっても基本構想といったようなことだけが長くなってしまわないかと大変心配している。原谷のほうは増えていくが、実は原田の子が入ってきているというのが今までの経緯なので。こういう状況に困っていて、地区から出て行ってしまふ。原田の方々の意見を聞いていてわかってきたことで、実態は待ったなしの状況なので、そこも見えていただきたい。

【委員長】

- ・文言上はどうしても将来的にという表現になるかと思うが、それは先延ばしというよりは、設置・建設については実情に応じて早めるということではないか。

【委員】

- ・作るということでほとんどみなさん納得している状況であるので、要はいつになったらという話がどんどん来そうな感じがしているが、もう検討委員会もなくなるのだから、区長さんとかまち協会長さんとかが、それをうけて教育委員会に行くような形になるかもしれない。ずるずると延びるということが予想される。

【委員長】

- ・状況は逼迫しているということだろう。是非極力早めてもらいたいという御要望だと理解した。

【事務局】

- ・小中一貫校をつくるにあたって、やっつてことは統廃合じゃないかとよく言われる。我々は統廃合とは別だ、小中一貫と統廃合は違うと言っている。原野谷学園と城東学園と、子どもの数、校数、大きさとしてほぼよいということでこれまで進めてきた。基本的には今回話し合っていたいただいた提言を基にして、基本構想的なことをこれから考えて行くが、そこにはどうしても原野谷学園と城東学園だけを考えて進めていく訳ではないので、同じように子どもが街中へ抜けていって困っているところが他の地区でもある。でもその地区は早く一緒にして一貫校を作ってくれという声はない。逆に言うと、今のままでよいというところも地区によってはある。全体を見て地域にあった学園づくりをしていかなければならないというところがあるので、将来的にはという言葉はあるが、全体を見た中でいかに原野谷学園を作るかということを進めていく。急いでもらいたいという気持ちは十分わかるが、どれくらい時間がかかるかということについては、今この段階では申し上げられない。この方向で行きたいというのを上げてもらって、財政的にどうか、地域においていろいろな要望を聞いてどうかと言うことを精査して、分析しながらやらないといけないので、もう少し時間をいただきたい。ベースとしてはこの考えで作っていききたいということで考えているので、その御理解をいただきたい。近い将来というのは何年後というのは、実際に建設するには最低5年はかかると申し上げたと思うが、最低でもそれ位の期間は必要となる。

【委員】

- ・実際に自分も参加させてもらって、当初12月の時には原野谷学園をつくるという形でスタートして、原田地区の人も、小学校がなくなるのは反対という人もいた。でも、実際小学校が複式学級になることだけは避けなきゃいけないので、そういう中では一貫校を作った方が子どものためになるということで進めてきた。他の地域の人が入って、学校が他のところに行ってしまうと、スタートしたときと話が変わってきてしまう。それと、原泉地区は西郷小学に統合されて、原泉の区長さんから聞いた話だと、今までは若い人が原泉から西郷へ出て行ってしまったが、最近は、別に原泉にいてもいいんだというふうに変わってきた。ここに原野谷学園を作ってもらって、地域をつくる、街を作るという気持ちで学校というものは考えて行きたい。地区をこれから発展させるという目線で考えてもらえたらと思う。

【事務局】

- ・ただ学校施設があっても街づくりに繋がっていかないのでは、今委員がおっしゃった視点は市としても入れていかなければいけないということは重々理解している。地域の方々・保護者の方々の声を聞く中でどこまで実現可能かということは先になってくるので、そこはお時間をいただきたいということになるし、複式学級の話もあったが、他の地区でもそうした心配のある学校がある。そういうところが地区として子どもたちのためにどういうことを教育に望むのかということはまだ話をしていないのでわからないが、ここを一つのモデルとして進めていきたいという考えもあり、今おっしゃっていただいたようなことも踏まえながら前へ進めて行きたいというのがこちらの考えであるので、今の声をまた地区の中でも出していただければありがたいと思う。

【委員長】

- ・各地区には地区なりの根強い要望があると思う。この報告書と同時にいろいろな形の上で上げていく方法があると思う。近隣地域との調整も検討していただきたいというのは、他からこちらへ集まってくるのか、そのための地域・学区の検討であってほしいというのが前提となつての表現だと思う。

【事務局】

- ・保幼小中とつなげていくことも考えると、もう少し広げていくということも、他の学園もそうだが、全体として考えて行かないといけないというのが行政側の課題としてある。

【委員長】

- ・保幼小中の連携を視野に入れていくと、関連するが25ページの学区の関係で、小学生徒歩4キロ未満、3.9、3.8キロくらいを小学生に歩けというのはかなり酷ではないかという意見が住民の方から何回かあった。そのことへの対応というか、基準はあるが、基準の解釈は25ページのような表現でよいのか。私もいろいろ考えてみたが、子どもの発達段階に応じてというのがありますので、この基準のみという意味ではなくて、少しは弾力的に対応できるのではないかと思うが、子どもを通わせる立場からはどうか。もっと強くしたほうがよいのか。基準自体は法令等の背景もあるので、どの程度で運用するかということになるが、前回の意見交換会では、許可を得た上での保護者の送迎なども多少いいようにも聞こえたが、報告書としてはどうか。

【委員】

- ・子どもの発達段階というと、同じ学年であってもうちの子は小さい、大きいということでもまた変な差別みたいな形になるかもしれないし、昔に比べて教科書の量もとにかく多いことも考えると、荷物を持てるかどうかということにも関わってくるので、できれば保護者の希望に応じてとか、もちろん希望が通るか通らないかということはあるかとは思いますが、発達というと引かかる人はもしかしたらいるかもしれないと思った。

【委員長】

- ・一方で基準があると学校の方も対応が難しい。発達段階を「十分」考慮しといったような表現もあろうかと思うが、事務局としてはどうか。

【事務局】

- ・十分考慮してというのはよいのではないかと思う。今おっしゃったとおり保護者としては心配な面があって、子どもの一人一人を見ていくと発達が違ってと言うのはそのとおりだが、一人一人ということではなくて、学年でこのくらいというところで書かせていただいた。とらえ方によってはそうとらえられるのだなと改めて感じたが、学年に応じて考慮をしながらということでも基本線は今の参考資料のとおりなので、これを基にしながら、保護者の了解を得ながら考えていくことになると思っている。誰でもいいと言うことになると、学校の近くの子が僕も私もという話になってしまいかねないので、場合によっては地区という形になるか、今後どういう検討になるかわからないが、そういったところで判断していきたいと思っている。

【委員長】

- ・表現上は「考慮して」くらいがよいのではないか。

【委員】

- ・参考資料の2番に通学距離が4キロとは書いてあるが、どことは書いてない。

【委員長】

- ・現状の文章で悪いと言うほどでは無いとは思いますが、考慮したほうがよいのではないかと思う。そんなところでどうか、当然考慮しなければいけないことであるので。

【委員】

- ・現実に学校では個別の配慮はしているのか。例えば、足が悪いとか、事情があればということなどを少し謳っておいて、個別に相談できるんだなということがわかればいいのではないか。

【委員】

- ・とても歩いてくることができない子はバスで来たこともあります。

【委員】

- ・親が送ってくることだってあるのではないか。

【事務局】

- ・様々な状況を考慮してとか、家庭の実情に応じてという言葉を入れながら考えていく。

【委員長】

- ・住民や委員会からの要望は確かにあったことであるので。以上でよろしいか。

【委員】

- ・私もいい提言書ができて素晴らしいことになっていくのではないかと期待を持っている。ただ、大きな学区編成ということを抑えていて、そちらも大きな力を必要とする内容だと思う。そういうことに力がいっていると今後のところがどこかで霞んでくるのではないかと心配していた。今委員の方からも質問があったし、教育長からも話があったが、学区編成の方にも力を注ぐけども、この一体校のことを推進してくれるようにブレがないようなことを伺った気がするので、是非そういう方向で前に進むようなものにしていただきたいと思います。

【委員長】

- ・時間的には5分ほど早く進んでいるので、今後への期待とか、報告書と少し離れた感想などあればどうぞ遠慮なく出していただきたいと思います。

【委員】

- ・今年度の方針の中に、コミュニティスクールという話が出ていたが、なにかそういうことで新たなコミュニティスクール的な、何かを地域と一緒にやろうとしているのか。従来の学園化構想とは違ったことを出すと思うが、何かイメージはあるのか。

【事務局】

- ・学校と地域でこれまで以上に連携した教育ができるようにということで、先ほどの虐待の話もそうだが、学校教育の限界が来ている。そうすると、地域の教育力があって、家庭をいかに支援にしながら、地域と一緒に育んでいくかという方向。そのためにコミュニティスクールというのは、なんというか、学校の敷居が高くて言えないようでも困るし、学校ももっと地域にお願いしたいということもなかなかできないというところで、それは学園化の中で大分解消してきてはいるが、それでももっと踏み込んだものというのが今回のコミュニティスクールの狙いである。そういったことができるような地域にしていくためにも、学校がある程度地域に入っていく、家庭から、地域からも学校に入っていく、そこをもっと強くしたいということで、意見をいろいろと、教員の人事にもある程度意見を述べられるような制度になるので、ちょっと変わってくるのではないかと、そこは大きく期待している。まちづくり協議会が、今地域によってかなり組織が違うが、そこがもっと中心になっていけば、人材不足で学校も地域に助けてもらいたいけれどなかなか人がいなくて入れないというのも実情としてあるので、こうしたところも課題として抑えながら上手にやっていきたい。学園の中ではコーディネーターが各学園にいるが、今ほとんどが区長会の関係の方か、まちづくり協議会の関係の方というふうに、重なっている。なかなか大変だという声もあるので、そうしたことの解消になっていけばという思いもある。3年間は学校評議員制度から学校運営協議会制度へ変わるという中で、少し時間をいただいてうまく変わっていくのではないかとはいと思うが、そうした期待をしている。

【委員長】

- ・4月からか。

【事務局】

- ・4月から全部の学園で行う。教育振興基本計画で謳っている。原野谷学園だけということではない。

【委員】

- ・先ほどの虐待の話と関係してくるが、先ほどグランドデザインの関係で話をしてくださって、一人一人を大切に書いてあるが、それを見たときに「あ、そうなんだ、教室で子どもたちをよく見ているんだ」というだけの薄い感想でしかなかったものが、話を聞いていると、奥にある家庭環境とか、教育の格差なんかも含めて深いところでした。しっかり考えた上でのグランドデザインなんだなと思った。みなさんになかなか伝わらないのが残念だなと思い、この場で聞いて良かったと思った。

【委員長】

- ・以上で協議を終了する。
- ・本日話した内容も含めて報告書の提言に反映していくようにしたいと思う。なお、この後の修正については、委員全員がまた集まるというのは大変なので、私が確認させていただいて、委員長決裁という形でよろしいか。
－「そのように進めていただいきたい」との声あり－
それでは、そうさせていただきます。

以上で協議を終了した。

6 連絡事項

7 閉 会